



Via Latina 22

2020年6月 291号

総本部よりのお知らせーマリア会

東アフリカ地区でのマリア会終生誓願式



左より: Bernard Lugutu師, SM, Dancun Onyango士, SM,
Kennedy Bwalya士, SM と Stephen Mburu師, SM

2020年5月2日、東アフリカ地区は霊的に一緒に集まり、Dancun Onyango士とKennedy Mutale Bwalya士の終生誓願式の喜びを分かち合いました。“サラゴサの精神”の黙想をもって終結する長い準備を終えて、私たちの2名の兄弟はマラウィのカロンガにあるBrother Timothy Mazundah共同体において終生誓願を宣立しました。地区の霊生部長Bernard Ombima Lugutu師がミサ聖祭を司式し、説教を行いました。Stephen Wanyoike Mburu師が共同司式しました。共同体の4名のブラザーたちと2名のFMIシスターたちが誓願式に参列しました。ミサの後、カロンガの新しい共同体施設の美しい中庭でお祝いの夕食が供されました。

2名のブラザー、DancunとKennedyの終生誓願式は、全世界に影響をもたらしているCOVID-19に起因するロックダウンとたまたまかち合ってしまった。それゆえ、多くの人たちにとって誓願式に出席するのが困難で、地区長Gabriel Kirangah師も出席出来ず、Bernard師に誓願の受け入れを委任しました。この誓願式は、マラウイで行われる初めての誓願式であり、またブラザーたちの出席が最も少ない誓願式であるという歴史的なものでした。出席者全員による素晴らしい聖歌隊が編成され、典礼はそれでも荘厳で美しいものでした。

私たちは、マリアニスト家族を通して聖母マリアへの協力を決して拒まないと誓ったこれら2名の若者を贈ってくださった神に、東アフリカ地区と共に感謝を捧げます。

インド、アメリカ、そしてメリバでの初誓願式



左より: Sanjay Ekka士, SM (インド従属地区教育部長), Larry McBride士, SM, Vicky Kumar士, SM, Andugala Naresh士, SM, Chinnaiah Polishetty師, SM, Dilip Tirkey士, SM とJames Dung Dung師, SM

5月20日、Andugala Naresh士とVicky Kumar士が、ランチのニーマル・デーブでマリアニスト家族メンバーの出席の下、初誓願を宣立しました。修練長、Chinnaiah Polishetty師が初誓願式を執り行いました。インド従属地区の教育部長Sanjay Ekka士がUSA管区の管区長Oscar Vasquez師の代理として彼らの誓願を受け入れました。マリア会員、FMIシスター、MLCメンバー、合わせて約15名のマリアニストがこの簡素な誓願式に出席しました。

5月23日、土曜日の夕方、主のご昇天祭の前晩のミサ聖祭の中で、Magdaleno (Leno) Ceballosが初誓願を宣立しました。誓願式はオハイオ州、デイトンのMt. St. Johnマリアニスト修練院にて行われました。誓願式はCOVID-19感染症への対応規制に準じるため少人数の出席で行われましたが、誓願式はインターネットで配信され、Leno士の家族を含む他の多くの人たちがそれを見ることが出来ました。修練長のChris Wittmann師がミサ聖祭を司式しました。Dan Klco士が参加者全員に歓迎の挨拶を行い、そして管区評議員メンバーのCharles Stander師が管区長代理で誓願を受け入れました。



左より: Daniel Klco士, SM, Charles Stander師, SM,
Leno Ceballos士, SM と Christopher Wittmann師, SM

Leno士はカリフォルニア出身です。彼はサンアントニオの聖マリア大学で学びました。そこで彼はマリアニストと知り合い、その結果、私たちの一員となるようにとの神の召命を受け入れました。私たちは彼にお祝いを表明するとともに、彼が有期誓願期の中に初期養成を継続するので、彼のために祈りを捧げましょう。



5月30日、土曜日、Thomas Terrill士がメリバ管区、シャミナード・ミネオラ共同体で初誓願を宣立しました。ニューヨーク市の規制があるため、誓願式は“ノートルダム中庭”の屋外で行われ、出席者も管区メンバーとThomas士の両親のみに制限されました。それでも、聖母マリアの見守りの下、聖霊降臨祭の豊かな典礼を背景に、Thomas士はマリア会の修道者としての歩みを始めました。

彼は、初期養成を受けつつ、教師であり、また幾つかの部活のリーダーを担っているシャミナード高校での任務を継続します。

ローマ、シャミナード国際神学校での奉仕職選任式

2020年5月25日、月曜日に、ローマのシャミナード国際神学校の8名の神学生の奉仕職選任式が行われました。8名の中、次の3名が朗読奉仕者に選任されました：Anselme Mawe Agbessi (Togo), Peter Kulandai Yesu (IN), George Stifen Majhi (IN)。そして次の5名が祭壇奉仕者に選任されました：Alejandro Borella (ES), Victor Augusto Ferreira (BR-ES), David Kangwa (EA), Cyprian Maigi (EA), そしてSanthosh Savarimuthu (IN)。この選任式は通常2つの共同体が一緒に行う月曜日夕方のミサ聖祭の中で総長司式にて執り行われました。



左より: Francisco Canseco師, SM (校長), Peter Kulandai Yesu士, SM, Cyprian Maingi士, SM, Victor Augusto Ferreira士, SM, Frédéric Bini士, SM, (副校長), George Stifen Majhi士, SM, David Kangwa士, SM, Santhosh Savarimuthu士, SM, Alejandro Borella士, SM と Anselme Mawe Agbessi士, SM

この選任式は司祭職への準備過程の一段階です。感染症によって傷を受けている世界の現状は、世界の呼びかけに注意深くあらねばならない司祭の活動において、神のみ言葉とミサ聖祭が持つ慰め支えるという役割を強調するよう私たちを招いています。この任命式と同じ日にFMIの創立記念日が偶然一致したことは、私たちの先の総会で求められているように、この使命をマリアニスト家族内で実践される奉仕という背景に位置づけるのを可能にしてくれます。

任命式の後、総本部のテラスで兄弟的会食が持たれました。任命式を終えるとともに、この会食は、自分の行政単位に戻るために学年末にローマを離れる4名の神学生にさよならを告げる機会でもありました。国際神学校の校長として、また教皇庁総代理としての9年間の素晴らしい奉仕に対して、Francisco Canseco師 (“Pachi”) に特別な感謝が述べられました。9月にはスペインで他の任務が彼を待っています。既に公表されているようにMiguel Ángel Cortés師が彼の後任としてこの2つの任務を引き継ぎます。

日本と韓国の新地区長と総長評議員会とのオンライン会議



新たに行政単位の上長者が任命される時、任務に就く前に彼はローマを訪れ、総本部メンバーと会議を持ちます。5月第3週に、このような会議が日本の新地区長市瀬幸一師、および韓国の新地区長Dominic Park師と計画されていました。感染症拡大のため、彼らはローマ訪問が出来ませんでした。これら会議は延期されませんでした。便利な技術手段を活用して、5月13日から20日まで、総長評議員会メンバーと地区評議員を伴う両行政単位の地区長との一連のバーチャル会議が持たれました。

また同時通訳もありました。13日に市瀬師が総長評議員会と会議を持ち、そして14日はDominic師の番でした。これに引き続き3部門の各局長が異なる日程で2つの行政単位の地区長および各部長との会議を行いました。5月20日、総長評議員会と2人の地区長との合同会議をもってこの週の評価を行い、この“訪問”は締め括られました。

当然ですが、このような会議では実際に集まる利点は得られません、例えば、数日間を一緒に分かち合う可能性や、共通の課題についてのより非公式な話し合いです。それでも私たちは地区長補佐の参加が出来た事で利点を得ました。勿論、経費節減にもなりました。来年、彼らは総指導者会議のためローマを訪れることになっているので、その機会を利用して列聖請願者、教皇庁総代理、マリア会資料室長、そして国際神学校校長との会議を計画出来ます。



"Laudato Si" 発布記念日 – マリアニストとしての考察

2020年5月24日、教皇フランシスの回勅“ラウダート・シ” (*Laudato Si*) 発布5周年が祝われました。この行事に促され、また教皇の行動への呼びかけに合わせて、全世界マリアニストはこの記念日に到る9日間の祈りに参加しました。これは総本部財務局のイニシアティブで行われました。この期間中、毎日提供された引用文、考察、そして他の資料は全世界のマリアニストに前向きに歓迎されたように思います。



多くの人たちから感謝の手紙が送付され、これらの考察が共同体に於いて、一般信徒と共に、あるいは個人で活用されたことが述べられていました。彼らの幾人かは、当然のことだが、私たちの“共通の家”（地球）を大切にすることに成すべきことが非常に多く残されている事を指摘し、そして、この記念日が単なる情緒的な記念祭として残るのではなく、むしろ個人、共同体、政府、および文化圏として真に恵まれた行動機会であるようにとの希望を表明しました。私たちは、全ての人々、特に責任ある地位の人たちが神の創造の善のため働き続けるよう祈りを継続しましょう。

"Faustinoと一緒に過ごす夏" に向かって



マリアニスト家族は世界中であまり知られておらず、私たちはマリスタ修道会、あるいは他の修道会としばしば混同されています。しかし時には、“マリアニストですか？あっ、そうだ、Faustinoだ!”という人に会って私たちは驚かされます。Faustinoはマリアニスト家族の偉大な宣教師です。どれほど大勢の若者たち、学園付司祭たち、あるいはキリスト信者のグループが、私たちマリアニストを知らないで、また私たちと何の関わりもなく、Faustinoを模範としていることでしょうか！ Faustinoは数多くの召命を呼び起こしましたが、しかし今日彼は私たちを必要としています。昨日の聖人たちは、もし私たちが彼らについて最早語らず、彼らを知らせる新たな方策を見いださなければ、すぐに見知らぬ人と成ります。

COVID-19によって、プロサッカーチーム、バルセロナFCは、他の多くのクラブ同様、活動を停止しています。Faustinoは、“私はテレビでヨーロッパカップのマドリードとバルセロナの試合を見ました”と書くことはないでしょうし、むしろ、多分、“私は10分間キリストと話しました”、“私は一日中ロザリオを唱えていました”・・・と書くことでしょう。Faustinoは明確な信仰、実践的な信仰を持っていました；すなわち、彼が行った全てのことは信仰のうちに、またそのような信仰を通して生きられており、彼の生活は意味を見いだしています。

“キリストよ、私の理想は常にあなたとの交わりのうちに生きることです、そうすることで、毎日、私は少しずつ自分の目的、私の召命、すなわち、キリストへの愛から人々に奉仕する修道者になること、に近づけます”（1961年6月22日）

“Faustinoと一緒に過ごす夏”が意味することは、創造に感謝すること、家族および友人と出会うこと、活動を変えること、主と共に新鮮な息吹を吸い込む事です：“もし神が私に語られるとすれば、それはどんなことでしょうか”。

Faustinoが私たちと共に自分のミッションを続けられるように、私たちの周りでFaustinoを知らせるのを忘れないようにしましょう。またFaustinoが自分の病の年月を過ごしたように、現在、学校に行けなくて勉強をせねばならないという体験に直面している私たちの全ての生徒たちを彼に委ねましょう。

最近の総本部通信

- 訃報：11－13号
- 5月11日：行政単位の評議員への諮問 3か国語で総長評議員会から行政単位の責任者宛て送付
- 5月15日～22日：「ラウダート・シ」週間 3か国語にてマリア会全修道者へ財務局-JPICから送付

メールアドレスの変更

Edward Loch士 (US): edwardjloch@gmail.com